

会 議 録

会議の名称	第5回 鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会														
開催日	令和4年6月29日(水)														
開催時間	開会 18時30分 閉会 20時15分														
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎 3階 303会議室														
議長(会長) 氏 名	会 長 石 崎 一 記														
出席者(委員)氏 名 (出席者数)	石崎一記(会長) 佐藤芳隆(副会長) 吉田全利、初貝博幸、奥山龍一、奥木美恵子、眞鍋 透 土橋 純、関根 勇、吉田大樹、酒巻喜久子(11名)														
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	宮田忠夫、代みさき、藤原将人(3名)														
事務局職員 職 氏 名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育部長</td> <td style="width: 50%;">齊 藤 隆 志</td> </tr> <tr> <td>教育部参与</td> <td>大 島 進</td> </tr> <tr> <td>教育部副部長兼学務課長</td> <td>上 岡 勝</td> </tr> <tr> <td>教育部副部長兼教育総務課長</td> <td>鳥 沢 保 行</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主査</td> <td>新 井 洋 平</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主任</td> <td>堀 智 紀</td> </tr> <tr> <td>学務課主事</td> <td>石 井 亜 季</td> </tr> </table>	教育部長	齊 藤 隆 志	教育部参与	大 島 進	教育部副部長兼学務課長	上 岡 勝	教育部副部長兼教育総務課長	鳥 沢 保 行	教育総務課主査	新 井 洋 平	教育総務課主任	堀 智 紀	学務課主事	石 井 亜 季
教育部長	齊 藤 隆 志														
教育部参与	大 島 進														
教育部副部長兼学務課長	上 岡 勝														
教育部副部長兼教育総務課長	鳥 沢 保 行														
教育総務課主査	新 井 洋 平														
教育総務課主任	堀 智 紀														
学務課主事	石 井 亜 季														
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(傍聴者8名)														

<p>会 議 次 第</p>	<p>1 開会のことば 2 会長あいさつ 3 議題 諮問事項についての審議 ・広報5月号アンケート結果まとめ ・常光地域での意見交換会 ・視察報告と川里地域意見交換会について 4 閉会のことば</p>
<p>配 布 資 料</p>	<p>資料1 適正配置等における意見提案等 回収状況 資料2 常光地域意見交換会の主な意見要旨 資料3 小中一貫校視察報告</p>

会議の内容

(主な意見とその回答)

・審議会と並行で実施している意見交換会について、7月8日に小谷地域、17日に川里地域と実施する予定。当初示したスケジュールでは7月に予定していた第6回審議会にて答申となっているが、7月の意見交換会の結果を踏まえ、改めて審議会で意見を出した上で、第7回以降に答申というスケジュールに変更する。

・PTA 連合会として、直接各校の PTA 会長から話を聞く場を設けている。進め方に対して疑問がある方が多い。統合までのプロセスは慎重に考える必要がある。

優先すべきは学校に対してのメモリーではなく、子どもたち、保護者に対してどう向き合っていくかということであり、児童や保護者の理解に基づいて進めてほしい。

・6月12日、常光小学校体育館で意見交換会を開催。参加者数は在校生保護者29人、地域の方4人、未就学保護者13人。

在校生保護者は小規模校の良さについて、地域の方や未就学保護者はスクールバスや、放課後児童クラブ、学用品の補助等、統合後に関する意見が多く挙げられた。意見交換会で発言できなかった方からは、統合する、しないではなく、教育委員会として方向性を定めてから次回の意見交換会を実施してほしいという意見もあり、ある程度のスピード感が必要なのではないか。

・説明された計画や内容に関して、賛成の方が意見交換会の場に出てくることは少なく、出てきても意見を言わない場合が多い。反対する方から質問や疑問を受けることが比較的多いと考えている。

挙げられている意見について、貴重な指摘ではあるが、これらの意見が在校生、地域、未就学児を代表する意見と考えるには、慎重な判断が必要。

・資料1について、適正配置等における意見の回収状況を見ると、常光地域の回収状況は2件のみ。突出して少ないが、事務局の見解は。

⇒現時点では、事務局の方から、統合に向けた目安の期間を示している段階であるが、常光地域の方に関しては、具体的な統合年度を示さないと意見を出しづらいのではないかと感じている。

・数字だけ見ると2件しか意見は届いていないが、これだけ見て、常光地域

の熱量、関心が少ないというように考えてはいけない。

・競争心を持つことが必ずしも大事ではないが、教育環境を早く整えてほしいという常光小学校の保護者からの意見はある。

ただ、プロセスの問題はあるので、例えば、ただ意見を書いてもらうのではなく、アンケート方式など、工夫をすることでより多くの意見を聴取できるのではないかな。

・常光小学校について、令和6年度の統合の場合、令和5年度から鴻巣中央小学校に進学したいという意見が多く挙がってくると思われるが、笠原小学校の際はどのように対応していたのか。

⇒具体的な統合年を示した際に、入学時に鴻巣中央小学校への進学を希望する方が多く、要望を認めた経緯がある。

審議会から計画を進める方向で答申をいただいた際には、具体的な統合年度を示した上で、改めて、意見交換会を開催し、通学区域の弾力化についても検討していきたいと考えている。

・常光小学校の保護者から、友達が少なく、通学距離も長いといったことから、早く統合してほしいという意見を聞いている。

・意見の中で常光小学校は静かで過ごしやすいが、鴻巣中学校は騒がしいという意見があるが、鴻巣中学校は騒がしいのか。

⇒国道17号に近く、たまにサイレンが鳴るようなことはあるが、授業が止まるようなことはない。常光小学校の緑豊かな環境と比べれば、騒がしい部分はあるかもしれないが、教育環境という面では決して引けを取らないと思う。

・小規模化が進むことで、複式学級になることも考えられるが、常光小学校についてはどのような状況なのか。

⇒すぐに複式学級になるということはないが、令和9年度の入学児童数は一桁になることが推測されます。

・どのくらいの人数を適正ととらえるかは、人によって異なるが、小規模が良い、大規模が良いということは一概には言えず、それぞれにメリット、デメリットがある。直面している課題は、少人数であるがゆえに、我慢させていることがあるのならば、それは解決しなければならないということで、少

ない方が良いとか多い方が良いという教育学上の議論をするのは難しい。

- ・保護者の方々は、笠原小学校での事例を非常に気にしている。その中で、全員が上手くいっている訳ではないというような意見もあり、不安を抱えている子どもに対してのケアについて心配している保護者がいる。

保護者が心配される点、疑問に感じている点を具体的に拾い上げ、笠原小学校での事例を伝えていった方が保護者は安心するのではないか。

- ・審議の中で、「丁寧な説明」という言葉がよく使用されるが、具体的にどういふことを保護者の方は求めているのか。
- ・児童数が少ないと、それに対して教職員が1人つくのだから、その方が良いというイメージを持たれている方は多い。しかし、小規模から適正規模となった場合、例えば、今までは1学年に教職員が1人しかあてがわれなかったが、統合することで学級数に加えてもう一人教職員が入るなど、具体的なことを話すことが、丁寧な説明になるのではないか。
⇒加えて、教職員が少ないことで一人あたりの公務負担が増えることにより、児童に向けられる時間も限られてきてしまう。
- ・実際はそうではないが、結論ありきの進め方と捉えられてしまうと、丁寧な説明と思ってもらえないので注意が必要。
- ・スクールバスについて、乗降場所までの送迎が必要なのかという心配の声を聞いている。
⇒乗降場所については、児童が住んでいる場所や、安全確保、道路の幅員等を考慮した上で、複数箇所設置することを検討している。
- ・常光小学校と鴻巣中央小学校が統合したときの学校名はどうか。
⇒まだ、そこまでの議論になっていない。今後の意見交換会で意見があれば、検討した上で対応していくことになる。笠原小学校の際は、学校名が変わることで、校歌、校章、体操着等を含めて変更するものが多々あることから、鴻巣中央小学校のものを使用することとなった。
- ・笠原を廃校にする、だから鴻巣中央小学校に行くという考え方ではない。鴻巣中央小学校と笠原小学校の通学区域を統合するにあたっては、学校施設を活用するのは笠原小学校、鴻巣中央小学校、あるいは別の場所に新設かと

いう議論の中で、現実的な問題として鴻巣中央小学校を使用するという
ことである。

・丁寧な説明について、何回も同じことを繰り返し説明することで反対意見
が強くなってしまいうこともあるので、回数を重ねていくというのは難しい面
もある。

・みんなが不安になっているのは、先行きが分からないからだと思う。学校
が変更になることに対する不安を少しでも解消することが丁寧な説明ではな
いか。丁寧な説明の方法については、意見交換会で話をするだけではなく、
例えば、よくある質問をリーフレットにまとめる、他市町村の事例を紹介す
るなど、色々あると思う。

・小規模、大規模どちらにせよメリット、デメリットがある。それぞれの学
校において、デメリットを減らしていけるよう、全ての教職員が努めている。

・大きい学校が良い、小さい学校が良いとかいう議論は結論が出ない。ただ
子どもたちの友達関係や、人間関係、勉強面、運動面を考えたときに、ある
一定の規模がないと子どもたちにとっては難しい面もある。ある程度の規模
があった方がより良い成長が見込まれるというところで、適正規模の話を進
めており、この審議会の柱、方針はそこにある。

現時点では一定の人数がいた方が子どもたちの成長にはより良いというこ
とを何度も伝える必要があるのではないかと考えている。

・常光地域の意見交換会の資料を見ると、多くの方々の質問の内容が、すで
に先を見越した質問となっている。常光小学校の児童数が減少していくこ
とも、子どもたちのことを考えれば鴻巣中央小学校との合併はやむを得な
いと考え、スクールバスの運行方法や、放課後児童クラブはどうなるのかと
いうような質問にシフトしてきつつあるように感じる。

統合後の具体的なところが分からないと、保護者の不安にも繋がっていく
と思うので、常光地域については、スピード感を持って進めた方が保護者の
安心にも繋がるのではないかと考えている。

・学校視察について、学校の外観的なことだけでなく、こういう事業があっ
て、児童生徒や保護者にはこういうメリットがあるというように、伝えた方

が不安解消に繋がると思う。

・川里地域の3校については、川里村時代に建てられた小学校であることから、今の児童数や35人学級等に対応した学校ではないこと、校舎の老朽化が進んでいることに対して、ひまわり保育園、小学校、中学校が併設された、鴻巣のモデル校的な学校づくりを進めていくという旨を保護者や地域の方々にも丁寧に説明する必要がある。

子どもが少なくなるから統廃合をするのではなくて、積極的な教育の変化と考えてほしい。

・新設校においては、川里3小学校の保護者とともに再構築していけるようなプロセスを築いてほしい。

また、現時点でも川里3校の老朽化がかなり進んでおり、特に、トイレはあまりにも汚く、行きたがらないような児童もいるということ。学校を新設するまで待ってくれというのは酷だと思う。学校の新設とは別に、修繕にも予算措置をお願いしたい。

⇒教育委員会として、26校全ての学校を確認しており、その中で、川里3校より状況が良くない学校はある。統合するから修繕しないという訳ではなく、優先順位を設けて、悪いところ、命に係わるるところから順番に修繕している。